

会報

No. 57

平成14(2002)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京 都 府 立 図 書 館 内
TEL (075)762-4655

『コンプレックス』について

文化庁長官 河 合 隼 雄

書物に関してはいろいろな思い出や、考えることも多いが、今回は自分の著書の『コンプレックス』（岩波書店 一九七一年刊）についての思い出を書いてみようと思う。

誰でもはじめて自分の著作を出版するときの感激は忘れがたいものがあることだろう。私も最初の著書『ユング心理学入門』を出版したときの気持ちは、今も忘れることができない。初めて出版するときは、誰しも苦労するものだが、いろいろな苦労や心配の蓄積の結果、出版した書物が好評で大変嬉しかった。

しばらくして、岩波書店の編集者の大塚信一さんから、一度会いたい旨の連絡があり、何かといぶかりながらもお会いした。大塚さんは、「青年編集者さっそうと登場」とい



う感じで現れ、私に岩波新書から出版するものを書いて欲しいと言う。これには仰天してしまった。

岩波新書はよく読んでいた。高校の教師をしていた頃、有志の同僚たちと一週間に一度集まって、メンバーが順番に推薦する岩波新書を読んできて、話し合う会を行っていた。それぞれ的好みで推薦する本が異なり、それまで興味のなかった領域について知り、こんな面白いことがあるのかと感心した。この頃に読んだ書物で、今も深く印象に残っているものも多い。

というわけで、岩波新書はいたく尊敬していたが、自分がその著者になるなどとは考えてもいなかった。そんなことはできそうにない、という私に対して、大塚さんは実に理路整然として説得を試みた。驚いたことに、大塚さんは『ユング心理学入門』のみならず、それまでに私の書いた学術論文まで読んでいた。当時はユングのことなど一般にはほとんど知られていないし、天理大学助教授の私も無名の存在と言ってよかった。

大塚さんは、そのときの日本にお

いて、ユング心理学が一般に知られることの意義について述べ、私なら岩波新書が書けるはずだと励ましてくれた。そして題名は『コンプレックス』にするとよいでしょう、とのこと「もう題名まで考えてある！」と私は感激し、その感激の勢いで書くことを約束してしまった。

その後、大塚さんはいい頃合いを見てはやって来て、書いた原稿を読み、的確な感想を述べ、そして上手におだてて続きを書く気を起こさせる。編集者というのはこのようにするの、と感心したが、おかげで書物は順調に仕上がりが、当時のベストセラーになった。

現在、『河合隼雄著作集 第II期（全十一巻）』（岩波書店）が刊行中である。その第一巻に『コンプレックス』が収録されているが、その出版社である岩波書店の現在の社長は、前記の大塚信一さんである。何か不思議な縁と、時の流れを感じさせる事実である。

あのとき、大塚さんは、私が日本人たちにユング心理学を伝える意義を熱心に語ってくれたが、その仕事の区切りとも言えるべき、日本の神話に関する私の考えが、この著作集の最終回に出版される。目下、ひたすらその準備を整えているところである。

京都府図書館総合目録 ネットワークの状況

府立図書館



平素は当館の京都府図書館総合目録ネットワーク(K-Libnet)事業に御協力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年六月一日にスタートした当事業も、平成十四年三月一日現在、Aタイプ(データ提供館)十八館、Bタイプ(データ検索館)十八館の計三十六館と参加館も順調に増加しております。また、近日中の参加を約十館が意思表示しておられます。

総合目録に登録されているデータ数も、稼働当初の約百十七万件から、三月一日現在で、約二百三十万件まで増えています。更に、今年度中には三館のデータが新たに投入される予定になっており、今年度末には約二百六十万件の総合目録が構築される予定です。

また、各市町村からの要望を踏まえ、昨年九月には府内三会場(綾部市、府立図書館、長岡京市)、今年の一月及び二月にも府内三会場(日吉町、網野町、和束町)でK-Libnetの操作研修会及び説明会を開催し、ほとんどの市町村の職員の方に受講していただきました。

K-Libnetは、京都府内の

図書館・読書施設が所蔵する資料のデータを持ち寄り、総合目録を構築することによって、主に相互貸借を通じた利用者の利便向上を目的として運用されています。

まず、総合目録が構築されることによって、利用者は、「この図書館に何があるか」「この本はどこにあるのか」という最も知りたい情報を、インターネットのK-Libnetのホームページ(HP)を通じていつでも・どこからでも得ることができます。そして、得られた情報に基づき、近くの図書館・読書施設を通じてその資料を借りることができるため、府内のどこに住んでいても、ほぼ均質な図書館サービスを受けることができます。

一方、各市町村の図書館では、総合目録を中心としたK-Libnetを使うことによって、これまで電話又はFAXで個別の図書館にそれぞれ行っていた相互貸借の依頼を、電子的なネットワークでリアルタイムに、かつ連続的に行え、より迅速に利用者に資料を提供できるようになります。府内全ての図書館・読書施設のデータが総合目録に収録され

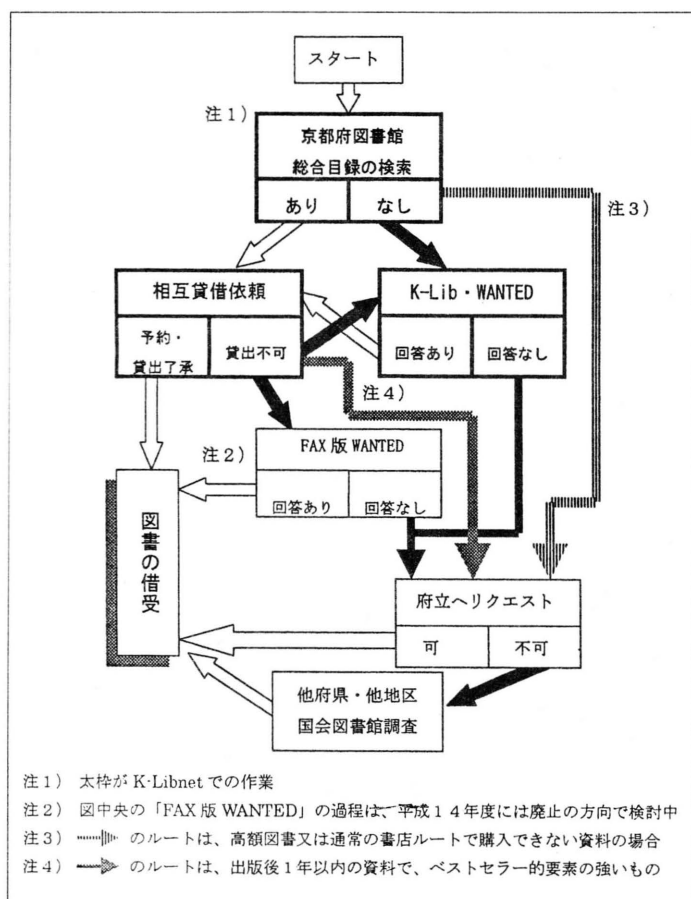
れば、このネットワークはその目的を達成し、最大限にその力を発揮することとなります。

K-Libnetの主な特徴は、借受依頼やWANTEDのデータをやりとりすることによって、相互に資料物流の管理をしたり、各館によって登録されたレファレンス・データベースを互いに参照して自館のレファレンスに役立てたり、業務統計(自館の貸出・借受資料名及びその冊数)が利用できることなどです。

また、K-Libnetは他府県の総合目録と比較して、いくつかの特色を有しています。主な特色を紹介しますと、連絡車のスケジュール

に連動して物流が管理できること、府立図書館所蔵資料に優先的に貸出依頼がかかること、職員用の検索画面では、雑誌確認のツールとして、TRCの最新全件MARCが参照できることなどです。

ところで、データ提供のためには自館システムからの抽出プログラムソフトが必要ですが、Bタイプではインターネットの環境さえあれば、すぐに参加できますので、まだ参加されていない図書館・読書施設の早期の参加が望まれます。今後ともK-Libnetの充実・運用に御協力いただけるよう、よろしくお願いいたします。



総合目録ネットワーク概念図

新しい時代を迎えて

京図連協会長 村上康夫

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」とは、『方丈記』の一節であるが、社会の動きは、無常観を別として、まさに流れる川のごとく絶えまなく変化している。

府内の公共図書館も着実に増えており、また府立図書館と市町村図書館による総合目録ネットワークシステムも順調に稼働し公共図書館に新たな展開が開けようとしている。

思えば、ここ数年、京図連協は何かと多忙であった。とくに総合目録ネットワークシステムへの参加をめぐり幾多の課題が提起され、その対応について重い舵取りを余儀なくされた。高度な情報社会に対応するシステムとして今後の府内図書館の発展に必要なシステムであるとの認識のもと、出来る限りの対処を行ってきた。特別委員会の設置をはじめ府立図書館への要望書提出とそれに伴う数多くの協議を重ねてきた。多くの時間が過ぎたが、今日、システム参加館が徐々に増え体裁が整いつつあることはご同慶にたえない。それにしてもこのような多忙な時期はもう二度とないのではないかと。各理事のご奮闘に敬意を表したい。今後はこのシステムが多くの方々

に利用され府内図書館の相互協力が一層進み図書館全体の発展につながるよう願う。

ところで、二十一世紀の図書館はどのようなようになっていくのであろうか。情報通信機器の発達は図書館サービスの範囲を拡大・増大させるであろうし、本格的な生涯学習社会の到来は、図書館と地域をますます強く結びつけるであろう。

また、公共図書館間の広域貸出や大学図書館、学校図書館との館種を越えた連携も進むであろう。いずれも住民にとって図書館はより身近な存在になっていくに違いない。

このような中で、京図連協は公共図書館等の唯一の協議会としてその立場をふまえて更なる発展をめざしていかなければならない。それには、各図書館等が相互理解と協調の精神を共有することが何よりも大切である。また府立図書館の市町村図書館に対する各般にわたる支援が不可欠である。

京都はわが国の公共図書館発祥の地である。先人の偉業を引継ぎ新しい時代にふさわしい図書館づくりを府と市町村が共に協力して進めなければならぬ。

平成十三年度

近畿地区公共図書館研修

滋賀県

二月五日から四日間、滋賀県立図書館等を会場に開催されました。

◎第一日(会場・滋賀県立図書館)

開講後の基調講演では、日図協理事長の竹内慈氏から人が生きることと図書館との関わりについて示唆に富む問いかけがありました。

◎第二日(会場・大津市民会館)

「生涯学習と図書館」(住岡英毅氏)、「図書館法と現代の図書館について」(山口源治郎氏)の講義のあと、図書館サービスの現代的課題についてグループ討議を行いました。

◎第三日(会場・琵琶湖博物館)

午前中に「琵琶湖の環境史」(中島經夫氏)、「公共図書館と学校図書館の連携について」(明定義人氏)の講義があり、午後から施設見学が行われました。

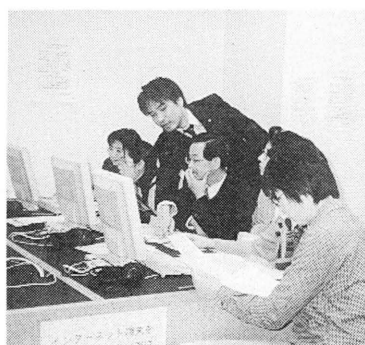
◎第四日(会場・大津市民会館)

「図書館におけるインターネット利用の現代的課題」(北克一氏)、「図書館と著作権」(前園主計氏)の二つの講義が行われ、閉講となりました。

IT化をはじめとする急速な社会環境の変化に対し、図書館が目指す方向について考える機会を与えてくれた研修でした。
(来年度は大阪府で開催予定)



実務研修・北部会場(2001.11.29)



実務研修・中部会場(2002.1.24)



近畿地区公共図書館研修・滋賀県
(2002.2.5~2.8)

好評だった

ブックトーク講習会

平成十三年十一月二十九日(木)
午後一時三十分から四時まで、福知山市立図書館において、実務研修会を実施しました。北部の福知山市での開催でしたが、四十五名もの参加がありました。

今回は、京都科学読み物研究会会員の北畑博子氏を講師に招き、「ブックトーク講習会」初心者から上級者まで」と題して講演いただきました。最初に、いろいろな子どもたちがいろいろな関心を持っている本を手にとることができるよう、大人が手助けする必要がある、その方法としてブックトークがある、と話されました。そして、実際に子どもたちの前で行うのと同様に、小学校低学年向け、高学年向け、中学生向けの三種類のブックトークを実演していただきました。

図書館業務でブックトークを実施している人から初めてブックトークを見るという人まで参加者は様々でしたが、みんな先生の話に引き込まれ、終了後には子どもたちの様に「あの本が読みたい。」と言い合っていました。時間が足りず、用意していたブックトークを全部聞けなかったのは残念でしたが、参加者の皆さん全員が満足の笑顔で会場を後にされたのが印象的でした。

実務研修に参加して

福知山市立図書館

武藤 晶子

福知山市立図書館でブックトークの技術を身につけるといふ趣旨の実務研修が行われました。講師の北畑博子先生は実演を混じえて、ブックトークの役割と実際に行う上でのポイントをお話されました。

ブックトークの役割は子どもたちに本を紹介し読書の楽しさを伝えると共に本を選ぶヒントを与えることです。その時最も重要なのは、楽しく面白いということが基本であり、勉強やおしつけであってはならないということです。北畑先生のブックトークは本当に楽しくて、これを聞いた子どもたちはみんな本が読みたくなるに違いないと思われるものでした。

北畑先生はブックトークに本だけではなく、小道具を用意したり遊びを取り入れたり工夫されているそうです。又、子どもたちの多様な興味や関心に応えるため、ご自身も好奇心旺盛に生き生きと生活を送るように心がけているとお話されたのが印象的でした。

この研修で私はブックトークの魅力と大きな働きを知りました。子どもたちが図書館や学校等でブックトークを聞く機会が増えるよう、図書館員や教師はその技術を身につけ実践していくことが必要と思いました。

インターネット検索

講習会開催

平成十四年一月二十四日(木)午後一時半から五時まで京都府立図書館を会場にして実務研修会が実施されました。

今回の実務研修会はIT時代にふさわしいインターネット検索についての研修会です。対象をインターネット未経験者・初心者に限定しましたが、三十七名もの多くの参加がありました。

一井研修研究委員長の挨拶に続いて、二班に分かれてインターネット検索と府立図書館資料を使ってのレファレンス演習を一時間づつ行いました。演習問題を熱心に回答していく姿は印象的でした。

最後は施設見学です。府立図書館内を丁寧に案内していただきました。

二十一世紀対応型図書館の象徴ともいえるマルチメディア閲覧室のインターネット端末は、常時満席の状態が続いているとのことでした。

お忙しい中、講師ならびに会場の提供をいただきありがとうございます。

今回の研修会が、IT時代の新しい図書館を考える第一歩となればと考えております。

実務研修(中部会場)*府立図書館

実務研修に参加して

京都市右京図書館

高島 博子

京都府立図書館で実施された、インターネット検索講習会に参加しました。

まずはIT時代の図書館サービスに不可欠なインターネットを使いこなすため、用意して頂いた検索問題集に取組みましたが、どの問題もなかなか手強いものでした。

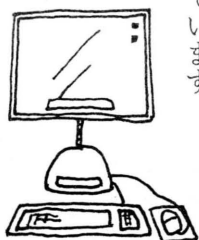
休憩のあとは、府立図書館資料利用によるレファレンス演習に移り、ここでも皆熱心に問題に当りました。

最後は職員の方の案内による図書館見学です。

テラコッタで装飾された明治四十二年建築の前面はそのままに、内には最新鋭の機器を備えた図書館内をゆっくりと見学できました。

終始和やかでありながら、これからのインターネットの検索技術習得を心誓わせる有意義な研修会となりました。

今回学んだことを生かし、KILibnetを大いに利用し、時代に見合ったサービスを提供して行きたいと思っています。



LIBRARY NEWS

☆京都に関する専門

資料館として再開館

府立総合資料館

京都市営地下鉄北山駅出てすぐ、府立植物園に隣接する総合資料館は、平成十二年十月から休館し、改築整備された府立図書館と、機能、蔵書の分担を行い、京都に関する専門資料館として、昨年五月に再開館しました。

京都の歴史、文化、産業、生活等の諸資料を重点的に収集・整理・保存する施設として、皆様の調査研究にご利用いただいております。

蔵書数は約三十万冊で、次のような内容です。

- ① 京都に関する図書、雑誌
- ② 日本の歴史、宗教、美術工芸、伝統的芸能に関する図書、雑誌
- ③ 京都府、府内市町村、国等が発行する官庁資料
- ④ 貴重書及び和漢書
- ⑤ 京都新聞及び京都関係の新聞

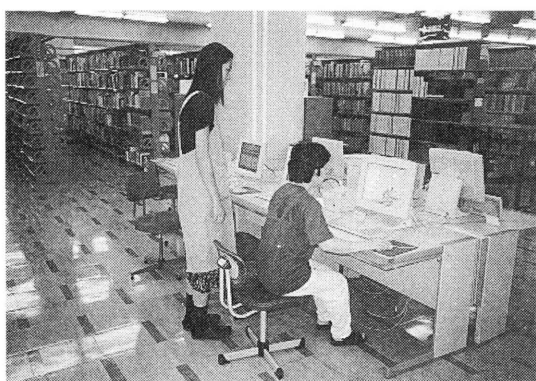
施設としては、三階閲覧室（二百九十席、開架図書約五万冊）の中に、以前は四階にあった文書閲覧室を三階に移し、図書と古文書、行政文書、写真・文学資料等が同じフロアで

利用いただけるようになりました。

また三階に収蔵展示室を整備し、年二回（春・秋）一般公開を行っています。二月二十二日～三月三十一日の間は「京の鳥瞰図絵師 吉田初三郎展」を開催しております。

なお今回のリニューアルに伴い、府立図書館の総合目録ネットワークシステムを導入し、図書十八万冊、雑誌六千件をデータ化し、併せて検索できるようになりました。一部の和装本、外国語図書等、未データ化分の蔵書につきましては電話、FAXでお答えしております。

今後とも、様々な形で皆様にご利用いただけるよう、願っております。



岩滝町立図書館

☆待望の町立図書館が

オープン！

面積約十二 km^2 、人口が約六千七百人の与謝郡岩滝町に、待望の町立図書館がオープンしました。平成十三年九月一日に開館記念式典及び記念行事が行われ、九月二日から貸出を始めました。

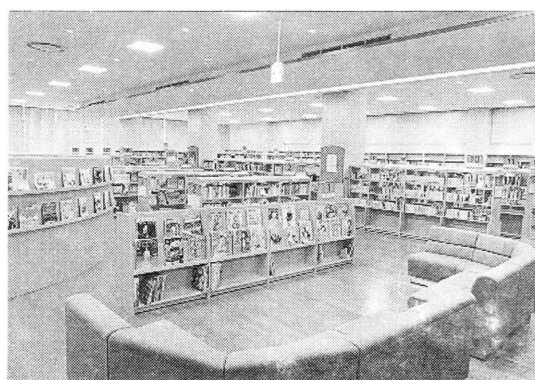
図書館は、ホールや研修室等を備えた複合施設、「岩滝町生涯学習センター知遊館」の一階にあり、延べ床面積は八四四 m^2 です。町の中心地にあり、町民の方が買い物や、散歩の途中に気軽に立ち寄ることが出来ます。

建設に当たっては、平成十一年に岩滝町公共施設建設等審議委員会による生涯学習センター建設基本構想の答申を受け設計されました。

知遊館内で開催される事業の参加者が、行き帰りに来館するなどの相乗効果がみられます。

約六〇二 m^2 の開架スペースには、高い天井にゆとりのある間隔で木製の書架を置き、南側の全面が窓で、明るく開放的な空間となっています。また、公園と隣接していることから、窓から四季の緑を楽しみながら読書をしていただけます。

さらに、ソファのある「ブラウジ



ングコーナー」、「屋外テラス」や「畳コーナー」を設け、利用者が思い思いにくつろいで読書ができる施設となっています。

児童コーナーは円形に書架が並び、やわらかく楽しさあふれる雰囲気です。子どもを本の世界へ誘います。

新しく導入したAVコーナーは、特に、子どもにも大変人気があり、休日には座席の順番待ちになります。

オープン後の約四ヶ月間（十二月末現在）で、個人登録者は千八百三十三人です。また、貸出人数は延べ五千四百七十六人、一万二千三百三十八冊が貸出されました。

今後、町民の本棚として更に多くの方に利用され、親しまれる図書館を目指します。

◎ ネットワーク検討特別委員会

ネットワーク検討特別委員会では、府立図書館と連携しながら、総合目録ネットワークシステムへの加盟施設の参加勧奨と、操作研修(説明)会の開催要望等に努めてきました。

その結果、府立図書館や京図連協加盟各施設のご理解とご協力をいただき、総合目録ネットワークシステムへの参加施設も大幅に増加してきています。

今回は、前号に引き続き参加館の状況をお知らせいたします。

まず、データ提供館(Aタイプ)は、一月以後、新たに京田辺市、八幡市、舞鶴市西・東、福知山市のデータ登録が完了し、計十八館となりました。またデータ登録件数は約二百三十万件となり、これで府下公共図書館の全所蔵冊数五百十八万件的の約四十四パーセントが登録されたことになりました。引き続き、宇治市、日吉町、園部町などのデータ登録が年度内に予定されており、年度末には約二百六十万件に達する見込みです。また、検索館(Bタイプ)も、前号でお知らせした以後も、新たに京北町、日吉町、和知町、丹後町、宇治田原町などからの参加申請があり、全体で三十八館の参加となります。一方で、京図連協の要望にもとづき、昨春秋に続き、府立図書館主催

のネットワーク説明会が、一月中旬から府下三会場で実施され、これからの参加館も含め、どここの会場でも熱心な受講風景が見られました。

◎ 研修研究委員会

十五名の委員で立ち上げた当委員会は、北部・中部・南部(一泊)とそれぞれ分担し、九月・十一月・一月の三回の研修を実施してきて、はや一年が経とうとしています。

研修参加人数は、北部で四十六名、中部で三十七名、南部で二十七名の、延べ百五名になります。

その内容についても、それぞれのブロック単位で、いままでの研修を参考にして立案してきたもので、ほぼ満足いただけたと思います。

また、研修会場を提供いただいた京田辺市立中央、福知山市立、京都府立のそれぞれの図書館には、ご協力に感謝いたします。

さて、一日研修と一泊研修では、人数に差が出ていますが、やはり予算面で参加しにくい状況があるように思われますし、一日研修も実質的には半日となり、内容で制約がかかるようです。

これらを来年度の課題として、委員の資質向上に研修内容が深まることを期待して、一年を終えたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

◎ 相互協力委員会

平成十三年六月一日から京都府総合目録ネットワークが稼動しました。この稼動に先立ち「資料の相互貸借に関する申し合わせ」「相互貸借の流れ」を作成しました。

九月二十八日に相互協力委員会を開催しました。ここでは市町村からのリクエスト対応に府立が迅速な対応をとるよう要望が出されました。

十一月二日に相互協力実務担当者会議を開催し、相互協力委員会で作られた意見をもとに府立図書館から、市町村へのリクエスト対応について迅速化を図るための改善が提案されて了承されました。

① 高額図書、通常の書店ルートで入手出来ない資料についてはK-I-L i b n e t のDBになかった場合、リクエストを受ける。

② 出版一年以内の資料でK-I-L i b n e t で貸借できなかった場合、W A N T E D でも貸借が不成立と府立が判断する資料についてはリクエストを受ける。

③ K-I-L i b n e t と F A X 版の W A N T E D を同時に出す。

相互協力委員会としては、今後各館の現状を率直に出し合い、利用者の皆さんの資料要求に答えられる、相互協力のネットワークの実現を目指して行きたいと考えています。

◎ 広報委員会

皆様のご協力により、今年度も八月・一月・三月と会報を三回発行することができました。

今年度最終号となる五十七号では、臨床心理学者で京都大学名誉教授の河合隼雄先生に巻頭文をお願いしました。一月十八日に文化庁長官に就任され、公務等で非常にお忙しいなかではありましたが、こうして私たち図書館人にとっては興味深い原稿をいただくことができました。

また、現在参加館が増加中の総合目録ネットワークシステムの状況について特集記事を企画してみました。現在のメンバーによる編集は五十七号で終了し、次号からは新しい広報委員にバトンタッチします。

編集子

前任者から広報委員を引き継いで二年、ようやくゴールまでたどり着くことができました。わかりやすく面白い紙面を目指して、記事の内容もタイムリーで興味深いものになるよう心がけ、レイアウトにも気を配ったつもりですが、いかがだったでしょうか。

会報へのご意見・ご感想等を紙面で紹介できれば良かったのですが、それは今後の課題としておきたいと思います。